

指定等の答申をした文化財の概要

重要文化財 すぎもと けいじゆうたく 杉本家住宅

【所在地】京都府京都市下京区綾小路通新町西入矢田町116

【年代】明治3年（主屋）

杉本家住宅は、京都市街の中心部に所在する町家で、綾小路通あやのこうじどおりに面して広い屋敷地を占める。主屋は明治3年に上棟され、表側の店舗部てんぽぶと裏手の居室部きょしつぶを玄関で結ぶ表屋造おもやづくりの形式となっている。また主屋の後方には、江戸時代に建てられた大蔵おおくら、隅蔵すみぐら、中蔵なかぐらが並び建ち、屋敷の周囲には高塀たかべいを廻らせている。杉本家住宅の主屋は、伝統的な京都の町家形式をよく示し、保存状況も良好で、市内に現存する大規模な町家建築として、高い歴史的価値を有している。また、江戸期の土蔵めぐとともに、明治期から昭和初期にかけて整えられた茶室なども保存され、京都の伝統的な町家の屋敷構えをよく伝えている。



杉本家住宅（主屋）



杉本家住宅（茶室）

国宝 えっちゆうのくにみずぐんなるとむらこんでんず(まふ) 越中国射水郡鳴戸村墾田図(麻布) いっぽ 一鋪
てんびょうほうじ 天平宝字三年十一月十四日

【所有者】独立行政法人国立文化財機構(東京都台東区上野公園13-9)

奈良国立博物館保管

【大きさ】縦 79.8 cm 横 140.5 cm

本図は、奈良時代の条里制下における越中国射水郡鳴戸村(現富山県高岡市)に存在した東大寺領庄園における土地開発状況を詳細に記した絵図で、天平宝字三年(759)の作成になる。文字のある箇所には「越中国印」が捺されている。

本図は、麻布を用いた数少ないもので、がくでんじがらんならびにじょうりず額田寺伽藍並条理図(国宝)や正倉院宝物の絵図に比べても保存状態が良く、作成当初の状態を今に伝える稀有な遺品であり、学術的価値が極めて高いものである。

(奈良時代)



国宝 いのうただたかかんけいしりょう 伊能忠敬関係資料 二千三百四十五点

【所有者】香取市（千葉県香取市佐原口2127）

伊能忠敬記念館保管

本資料は、『大日本沿海輿地全図』を作成した伊能忠敬（1745～1818）の事績に関する一括資料で、地図・絵図類、文書・記録類、書状類、典籍類、器具類からなる質量ともにまとまって伝存する資料群である。

江戸時代に全国を高い精度で測量し、正確な地図を作成することによって国土の形状を明らかにした伊能忠敬の学問の内容および測量実施や地図制作の具体的な方法を知ることができる比類ない資料群であり、我が国の測量史・地図史上における極めて高い学術的価値を有するとともに、伊能忠敬の生涯の事績とその人物像を多面的に伝えて歴史上に極めて価値が高い。

（江戸時代）

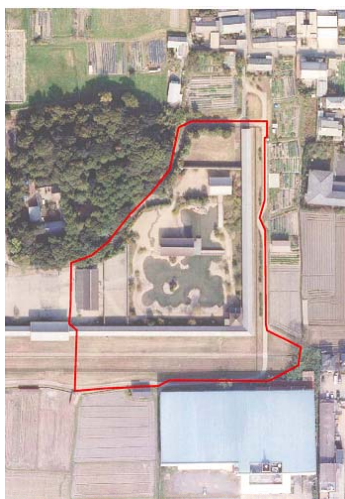


特別名勝 へいじょうきゅうとういんていえん 平城宮東院庭園

【所在地】奈良県奈良市

平城宮の東張出部ひがしはりだしぶは『続日本紀』に登場する「東宮」又は「東院」に比定され、その東南隅部において発見・修復された庭園は「名勝 平城宮東院庭園」として広く知られている。庭園は北から南に向かう緩傾斜面の縁辺部に位置し、東と南を平城宮外郭の築地大垣に、北と西を掘立柱塀にそれぞれ囲まれている。発掘調査により、池は8世紀を通じて存続するが、中頃に大きく造り替えられていることが判明している。その変遷の過程からは、7世紀の庭園の池に用いられた直線や垂直状の石積を持つ護岸手法から、優美な曲線やなだらかな洲浜状汀線すはまじょうていせんを持つ護岸手法へと、庭園の意匠・工法が大きく変化した経過がうかがえる。それは、中国及び朝鮮半島から伝わったと考えられる造庭技法を消化し、9世紀以降の日本庭園に見る独自の意匠・工法へと転化を遂げようとする重要な段階を表すものである。

このように、平城宮東院庭園は、8世紀における日本古来の庭園文化と大陸伝来の庭園文化との融合の過程及び後代の庭園に与えた多大なる影響を知る上で極めて高い造園史上の価値を持つ事例であるのみならず、その独特の意匠・構造・技法が精緻な修復により見事に再生された庭園として芸術上・観賞上の価値は極めて高い。



指定範囲（赤色部分）



庭園全景

重要文化的景観 たかしまし はりえ しもふり みず べ けい かん 高島市針江・霜降の水辺景観

【所在地】滋賀県高島市

高島市新旭町針江・霜降は、安曇川あどがわ下流域に広がる扇状地の扇央部に位置する集落で、周囲には豊富な湧水を活用した水田が展開している。集落内では湧水に端を発する大小の水路が縦横に流れ、針江大川を経て琵琶湖はりえ おおかわに注ぐ。針江大川流域・水路・水田及び湿地・河口域の内湖及びヨシ帯・琵琶湖が一つの水系として連続しており、豊かな生態系が育まれている。集落の起源は少なくとも中世に遡る。当時、比叡山延暦寺の荘園として既に広大な田地が開かれており、近世期には湿地を埋めて耕地化したことが記録されている。集落では湧水を活用したカバタと呼ばれる独特の洗い場を多くの家庭が有しており、その水は集落内の水路を経て水田・河川・琵琶湖岸へと繋がることから、水の使用については住民間で暗黙の規則が共有されてきた。また、湧水は重要な生活上の資源として神聖視されており、湧水点では石造物等が祀られ地域住民によって維持・管理されている。近年はこうした水環境を「生水しょうず」と称し、地域の水環境を保全する取組が進められている。

このように、安曇川の湧水を利用した独特の生活が営まれると同時に、集落・河川・水田・ヨシ帯等が一体的な水環境を形成する貴重な文化的景観である。



(選定範囲は赤線、
黄色は今後保護が必要な範囲)



針江・霜降地区

重要伝統的建造物群保存地区 さくらがわしまかべ 桜川市真壁伝統的建造物群保存地区

【所在地】茨城県桜川市真壁町真壁字下宿町、字高上町、字大和町の全域並びに字上宿町及び字仲町の各一部

【面積】約17.6ヘクタール

真壁町は、戦国期真壁城（国指定史跡）の城下の集落に起源を持つ。廃城後は笠間藩の陣屋が設置され、近世を通じて筑波山北麓の経済の中心地として発展した。

保存地区内には、江戸時代以来の地割がよく残るとともに、幕末から明治期の重厚な見世蔵せくらや土蔵、大正から昭和初期の町家や洋風建築が残る。間口の広い敷地では、主屋脇に蔵や門及び塀を建てる。多様性のある町並み景観に特徴があり、茨城県では初めての重要伝統的建造物群保存地区になる。



登録有形文化財（建造物） いぬぼうさきとうだい 犬吠埼灯台

【所在地】千葉県銚子市犬吠埼9576

【年代】明治7年／昭和62年改修

房総半島東北端の海拔20m地点に建つ。

下端に半円形付属舎を付ける外径7.2mのほぼ円筒形とする煉瓦造灯塔の上に、鉄製及び青銅製の灯室及び灯籠を設け、総高31mとする。

英国人技師リチャード・ヘンリー・ブラントンの設計指導により、煉瓦壁を二重構造にして耐震性を高めた、わが国最初期の大規模煉瓦造建造物である。

